

火災

小さな出火でもすみやかに
119番に通報しましょう

3分以内が初期消火の限度。無理はしないで！

火災発生時の対処法

もしも火災が発生した場合には、まず大声で近所に火事を知らせ、すみやかに119番に通報してください。初期消火で火が消せなかった場合には、無理をせず、すばやく避難しましょう。

1 大声で知らせる

●「火事だ、火事だ。」と大声を出して、近所に知らせるとともに、助けを求めます。火事の際はあわててしまい、一人ではなかなか対処できません。



2 119番通報

- 火事の際は119番に通報します。固定電話、携帯電話も局番なしで119です。
- 119番通報は、可能であれば固定電話から通報します。固定電話だと、消防署で場所をすぐに特定することができます。
- 小さな火事でも119番します。壁の中や天井裏に火が入っている可能性もあります。



3 落ち着いて初期消火を試みる

- 消火器で初期消火できるのは、一般的には炎が天井付近に達するまでの間です。
- 消火器は約15秒しか放射時間がありません。落ち着いて燃えている元に放射します。



4 すばやく逃げる

- 天井に火が燃え移ったら、初期消火は困難です。ただちに避難します。
- 子どもや高齢者を優先して避難させます。
- 避難する際は、燃えている部屋の扉は閉めます。

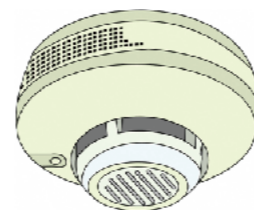
住宅用火災警報器について

消防法により、すべての住宅（共同住宅も含む）には住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

住宅用火災警報器の取り付け場所は、すべての寝室です。2階に寝室がある場合は階段の上部にも設置が必要です。

住宅用火災警報器が作動して火事を未然に防いだ事例は数多くあり、火災防止に大変効果があります。

ご注意 ●住宅用火災警報器の電池寿命は、各メーカーともおおむね10年とされています。また検知部等の精密部品も劣化する為、10年を目安に本体交換をお勧めします。



住宅用火災警報器の例



鑑定合格証(NSマーク)

火災予防について

- ① ストープの上には洗濯物を干さない。
- ② 石油ストーブ、石油ファンヒーターに給油するときは必ず火を消す。
- ③ たばこの灰皿には水を入れておく。
- ④ 揚げ物をするときは、絶対にその場を離れない。
- ⑤ 電気器具を使用しないときは、できるだけコンセントからプラグを抜きます。
- ⑥ コンセントにほこりを溜めないようこまめに掃除します。

火災からの避難

- ① 天井に火が燃え移ったら、すぐに避難する。
- ② 子ども・高齢者、病人を優先する。
- ③ 服装や持ち物などにこだわらず、できるだけ早く避難する。
- ④ ちゅうちょは禁物。一気に走り抜ける。
- ⑤ 煙の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くする。
- ⑥ いったん逃げ出したら、再び中には戻らない。
- ⑦ 逃げ遅れた人がいるときは、近くの消防隊にすぐ知らせる。

火元別の初期消火方法

■油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ、濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断してから消火を。

■風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓をしめ、徐々に戸を開けて一気に消火を。

■衣類

衣類に火がついたら転げ回って消すのも方法。髪の毛の場合なら、衣類（化学繊維は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

■石油ストーブ

水に濡らした毛布などで、手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断し消火します。石油が流れて広がっているようなら毛布などでおおい、その上から水をかけて消火を。

恐ろしいのは煙です！

火災で発生する煙には有毒ガスや一酸化炭素が多く、吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があります。タオルやハンカチなどが手元にある場合は口と鼻を覆い、視界が悪いときは壁づたいに避難しましょう。



■電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できたらブレーカーも切る）消火を。

■カーテンやふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

